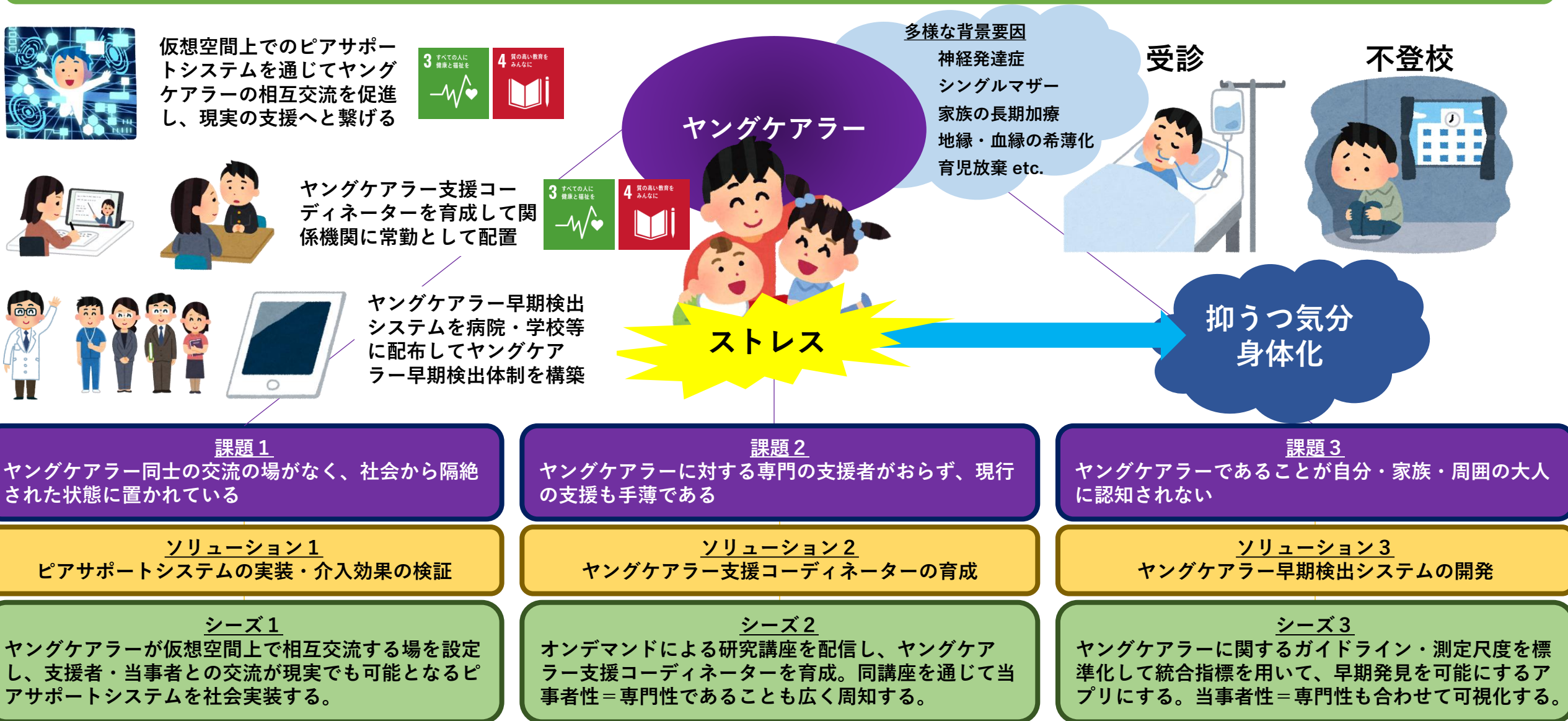


ヤングケアラー支援 にむけた取り組み

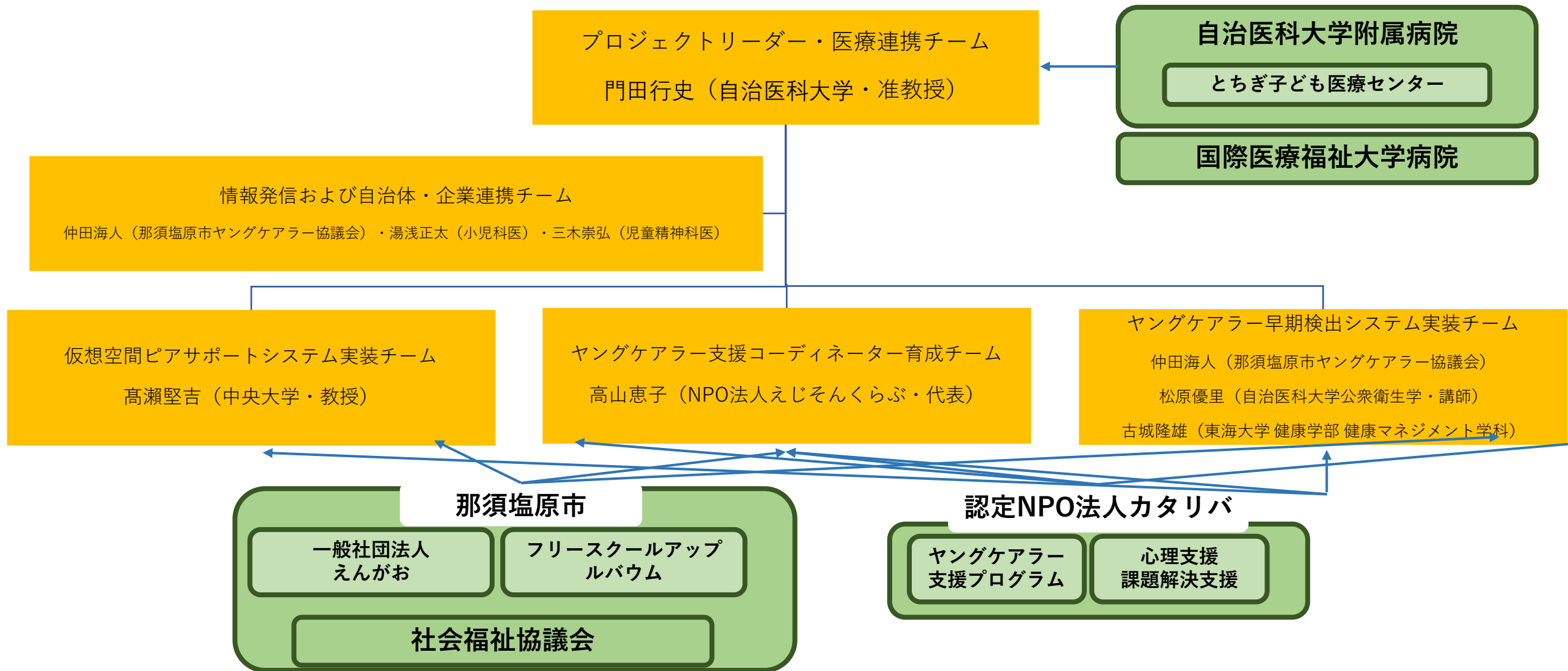
門田行史	自治医科大学/国際医療福祉大学病院非常勤医師（小児科医）
高山恵子	えじそんくらぶ 代表 （心理師・薬剤師）
仲田海人	ヤングケアラー有識者会議メンバー（作業療法士）
高瀬堅吉	中央大学教授 （心理師）

医療と福祉を必要とするヤングケアラーゼロ社会のシナリオ創出 ー子どもの保健 2.0ー

ヤングケアラーの早期発見・早期対応を目指した多職種・自治体との連携による家族支援・家族相談



実施体制



那須塩原市：シナリオ創出フェーズのPoCの場として想定。カタリバが提供する仮想空間と協調して現実空間でのピアサポートを実装する。

発達障害・ヤングケアラー支援の現状

- ✓ 発達障害の客観的評価、治療評価の指標が不足している
- ✓ 家族全体の評価、支援するシステムが不足している
- ✓ 多様な価値観に基づく判断、教育が不足している（リベラルアーツが必要）

「子ども達の安全地帯」がない

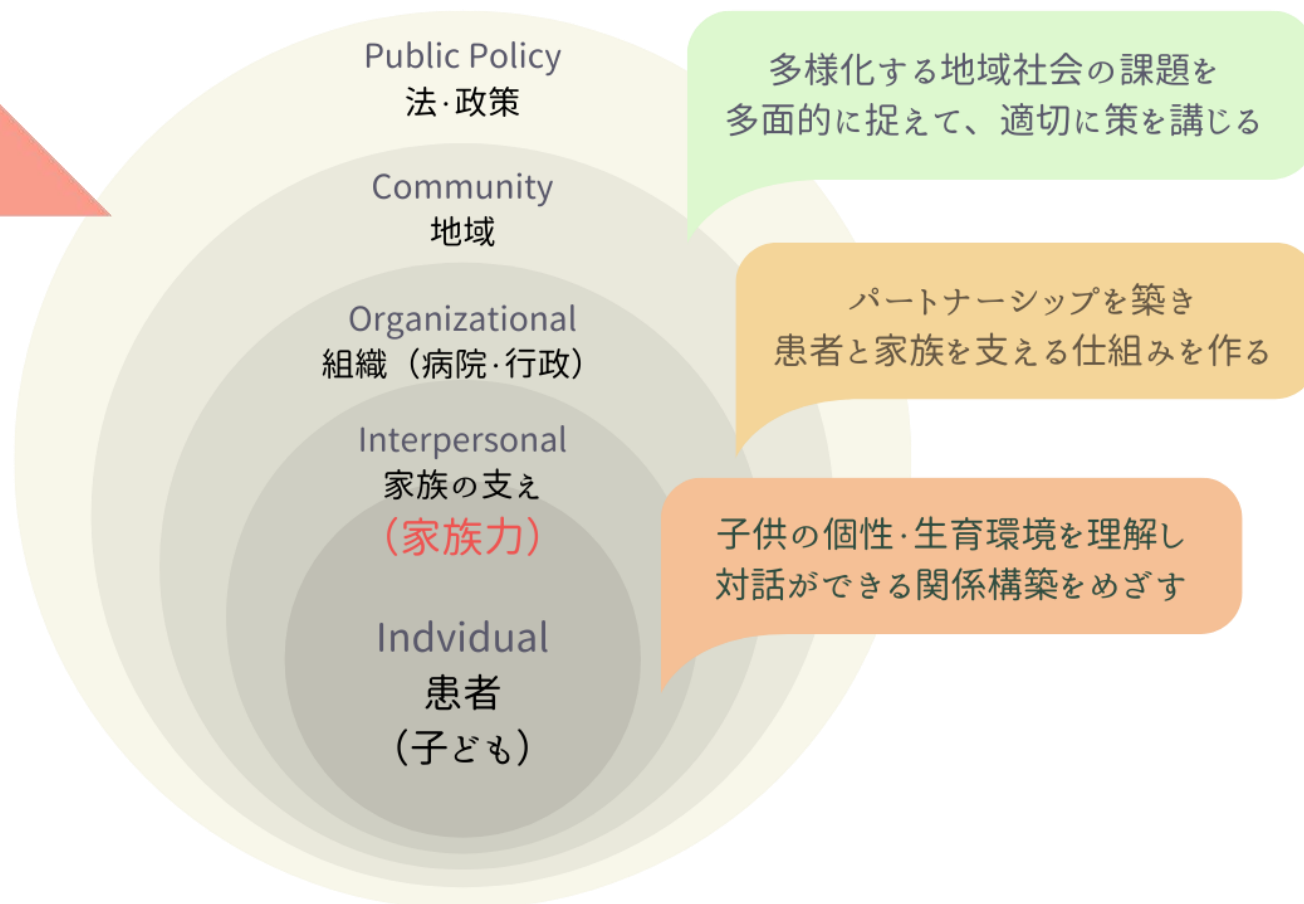
最適な支援を受けられない、安心して生活できない、強みを活かせない

家族丸ごと支援

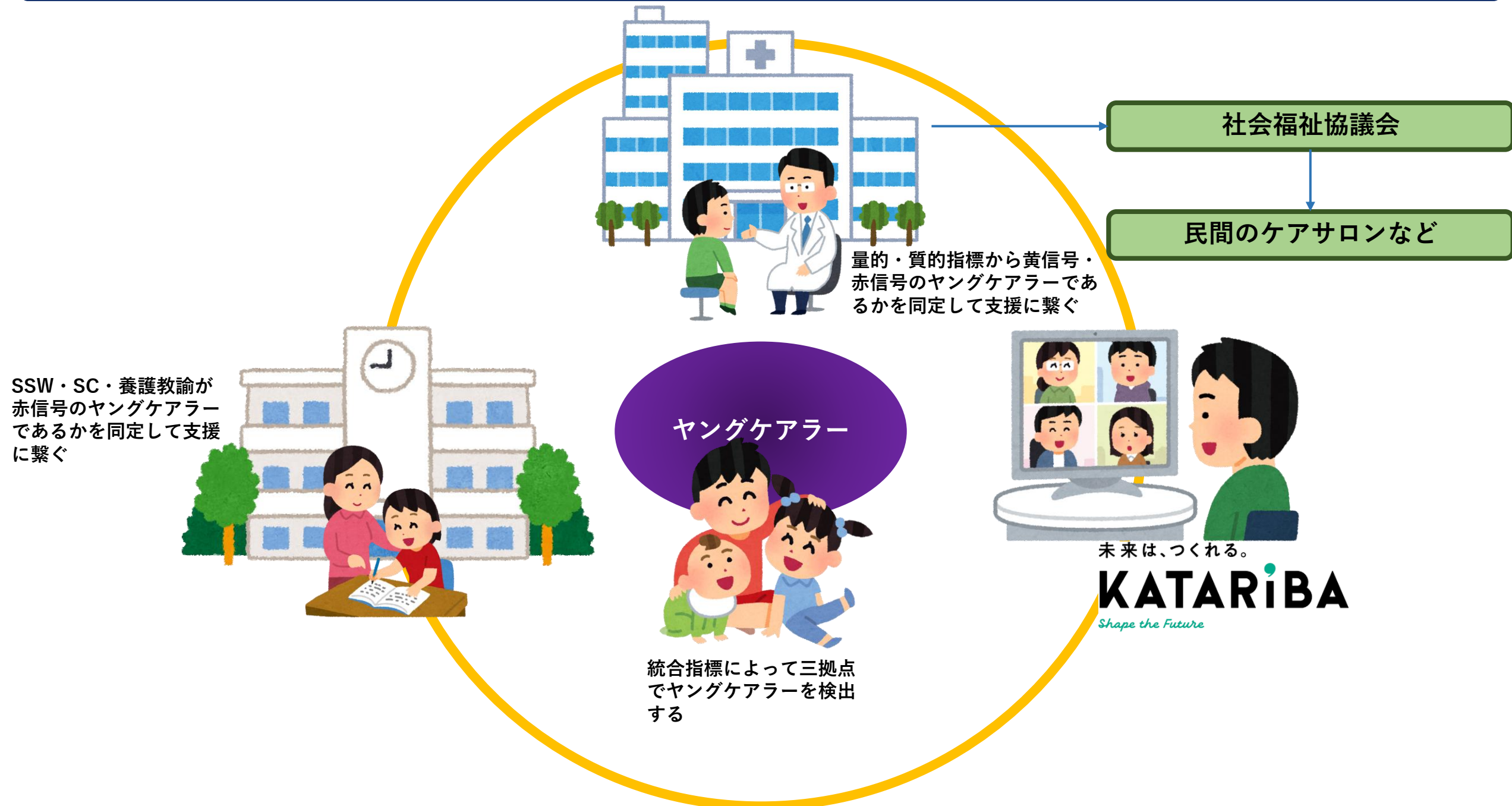
地域に「子どもの安全地帯」を作りながらエビデンスに基づいた支援を目指す



子どもの健康から家族・地域の健康を見つめる



医療と福祉を必要とするヤングケアラーを支援へとつなぐ導線



自己紹介



和田 果樹 Miki Wada

兵庫県出身。教育系大学院修了後、新卒で**認定NPO法人カタリバ**に入職。東日本大震災の被災地で子どもの居場所作りや学習支援に従事するが、社会人になった矢先に母が難病ALSを発症し、介護のため1年半で休職。およそ2年半の介護を経験しながら、リモートで復職し、全国の高校の探究学習支援に携わる。

自身の介護の経験から、現在はフルオンラインでの**ヤングケアラー支援**の立ち上げと企画運営を担当。R4年度東京都ヤングケアラー支援検討委員会委員。

カタリバが取り組んでいるテーマとアプローチ

What

複雑化する子ども達の課題に多様な切り口で向き合う

子どもの
貧困

不登校

ヤング
ケアラー

外国
ルーツ

被災地

...etc.

Where

リアルとオンラインの
ベストミックスを探る



リアル支援
(拠点・対面型)



オンライン
支援

Who

子どもたちを支える
多様な主体を巻き込む

未来は、つくれる。
KATARiBA
Shape the Future



カタリバのヤングケアラー支援

+ α
運用例

キッカケプログラム forヤングケアラーのご紹介

未来は、つくれる。

KATARIBA

Shape the Future

カタリバのヤングケアラー支援プログラムの詳細

子どもだけではなく家庭に伴走するカタリバのオンライン支援「キッカケプログラム」の枠組みを活用し、ヤングケアラーとその家族を支援

茨城県との支援例

デジタル支援

パソコンとポケットwifiを無償貸与

安全に利用できるようセキュリティを重視した端末（chromebook）を使用。すべて初期設定を行ったうえで、貸出中も履歴などを管理できるような仕組みにしています。



PCサポート対応

PCの基本的な使い、受講するプログラム参加のPC接続におけるサポート等

デジタルシティズンシップ研修

デジタルデバイス（機器）を安全に そしてうまく付き合っていくためにはどのように活用していくべきかを考えるワークショップ等



子ども支援

伴走ミーティング（キッカケミーティングと呼ぶ）

中高生）1 on 1＝1回20分程度
週1回、固定のメンターと関係性を構築し、週次の目標設定・動機づけ・振り返りをしながら、学習／生活の伴走を行う。PC活用サポートやチャットでの個別コミュニケーションもとっていきます。



オケイコプログラム

オンラインでの学びの講座から1つを選択しチャレンジをしていく。



保護者支援

保護者面談

2 on 1＝月1回30分



月に一度、子育て経験のある保護者メンターが子どもに関する悩みなどについて対話する場を設けています。

また、子どもへの伴について保護者との線合わせを実施することで、伴の効果をもめられるように取り組みます。

公式LINEで日々コミュニケーションをとれるようにしています。

専門家サポート

理・社会福祉・情報モラルエドケーターなどへ専門的な相談ができる場を設けています。

カタリバが提供するヤングケアラー支援の取り組み

茨城県との支援例

+ α
重症ヤングケアラー
の抽出

forヤングケアラー
(中高生のみ)

PC/Wifi配布
セット
アップ

子ども伴走_(週1)

保護者伴走_(月1)

学びの機会への接続

各種情報提供

基本プログラム
(キッカケプログラム)

1

中高生対話プログラム
(子どもピアサポート)

2

保護者向けワークショップ
(保護者ピアサポート)

3

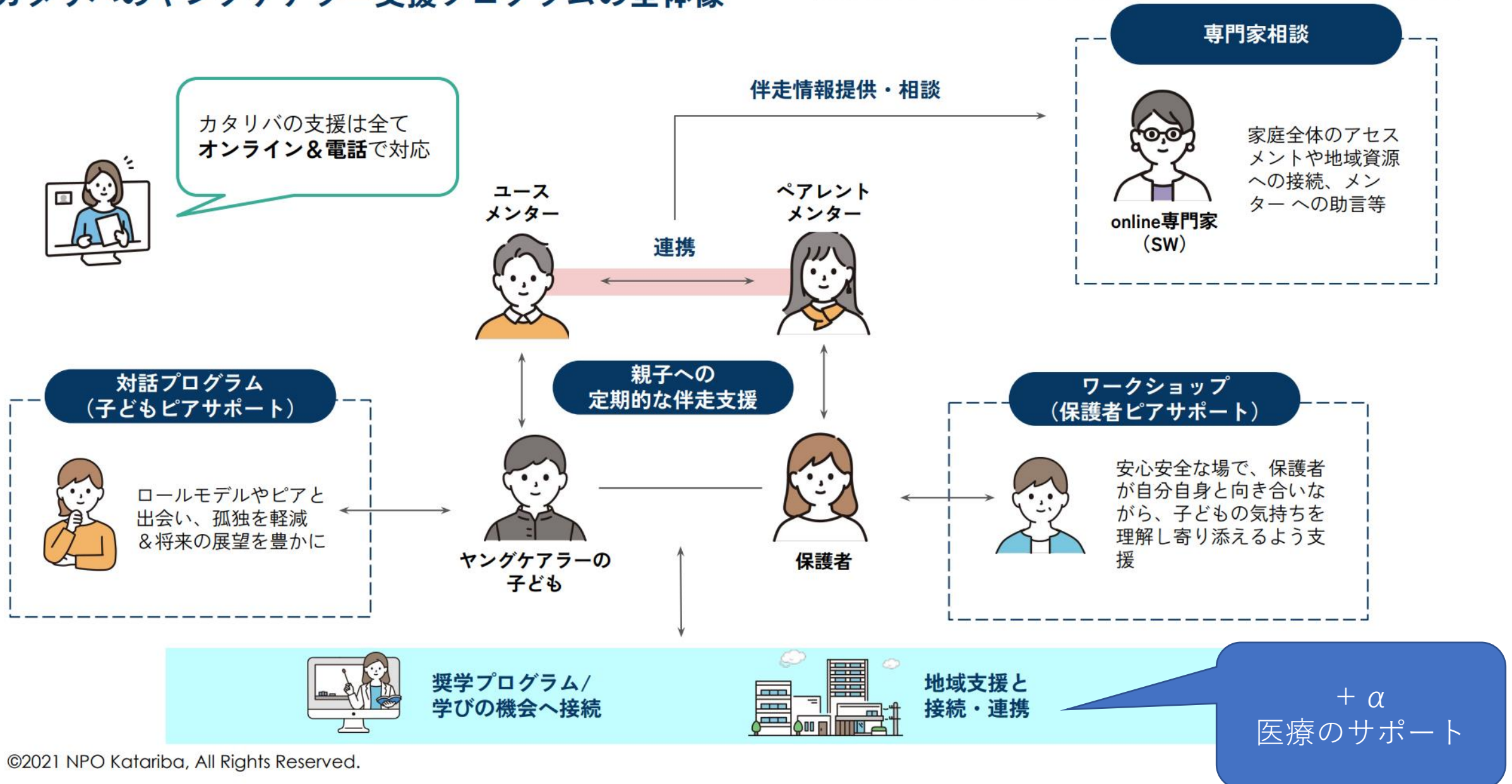
ヤングケアラー家庭の相談窓口

心理的
支援

課題
解決型
支援
(負担軽減)

子ども、保護者それぞれのメンターによる定期的な伴走、学習支援の機会を軸としながら、ヤングケアラー家庭と予備軍の家庭には「forヤングケアラープログラム」を提供。親子への心理的支援と課題解決型支援をシームレスに繋ぎ、家庭全体をサポート。

カタリバのヤングケアラー支援プログラムの全体像



活動メンターについて

活動参加前の研修（1～2ヶ月）や活動中の振り返り/スキルアップ研修（隔週～）を行い、
ヤングケアラーの家庭への伴走支援の質を担保

プラスα
栃木の人材バンク活用
ヤングケアラー
OB/OGの活躍の場づくり

ユースメンター



ペアレントメンター



プラスα
我々の
教育プログラム
導入

※メンター数は22年度時点

年代

20代前後の大学生・社会人

40～50代前後（性別不問）

経験や資格

資格不問 / 子どもと関
わったことがある方優遇

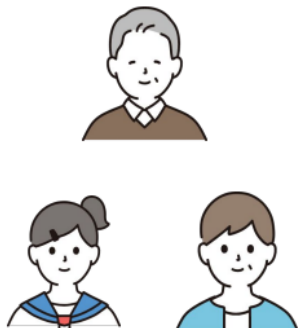
資格不問 / 子育て経験or保護者
と関わった経験必須

居住地

全国/海外からでも参加可能

実際の支援事例

状況



高校生女子/母（ひとり親）/
祖父（要介護3）

- ・介護が必要な認知症の祖父中心の生活
- ・子どもはおじいちゃん子で主体的にケアを担っていたが、介護開始後疲労感で登校ができなくなり、進路の変更も余儀なくされる
- ・母も疲労が溜まっていたが、できれば在宅でみたいという希望あり

カタリバの介入



子ども/保護者メンター

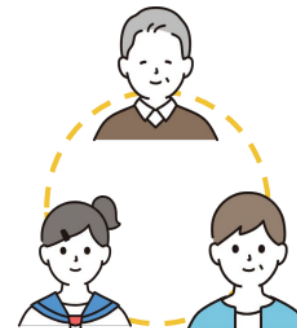
定期的な伴走の中で子どものSOSをキャッチし、家庭全体への支援が必要と考え、保護者に対し専門家との面談を提案。（カタリバさんの見解も聞いてみたいのでぜひ、と保護者は回答）



専門家
（相談支援専門員）

家族それぞれの状況を聞き取り、家庭全体のアセスメント。家族の意向に耳を傾けつつ、このままの状態が続いた時に起こりうる状況（介護による共倒れや子どもの未来の損失）などについて丁寧に説明。家族の休息のため、ショートステイ（宿泊型サービス）の利用をすすめる

結果



高校生女子/母（ひとり親）/
祖父（要介護3）

- ・最初は抵抗があったものの、無事ショートステイを利用。その後は自分たちの必要に応じて自発的に利用しており、休息を適度に取りながら介護に向き合えるように。
- ・子どもの不登校傾向も改善し、今は元気に通学。自宅から通える大学の受験準備を進めている。

家族が持続可能な形で介護に向き合い、地域で暮らしていくための重要な一歩に

チラシでは繋がりにくい家庭へのアプローチ・誘い出し

万が一、本人や保護者にチラシを配ることで
支援に繋がりにくくなることが予想される場合

+ α
家以外の場所の提供
例：公民館など
対面＋オンラインの活用

- ✓ PCとWi-Fiが無料で貸し出ししてもらえる
- ✓ 学習ツールやプログラミング・イラスト講座などのプログラムがある
(家にいながら習い事ができる、送り迎えがいらない)
- ✓ 少し上の先輩と将来について話したり相談できる機会がある
(家族や友人・先生以外との外とのつながりができる)
- ✓ 同じような境遇の同年代と話せる

など、「ヤングケアラー」という言葉を用いない誘い出し方法もありますので、
個別のお声がけの際はご参考ください。



子どもから家族・地域の健康をまもる

子ども達、家族の安全地帯の構築を通して社会に貢献するための
家族丸ごと支援、その中の一つであるヤングケアラー支援をすすめてゆきたい

こども家庭庁の基本方針

NHK

企画立案・総合調整部門

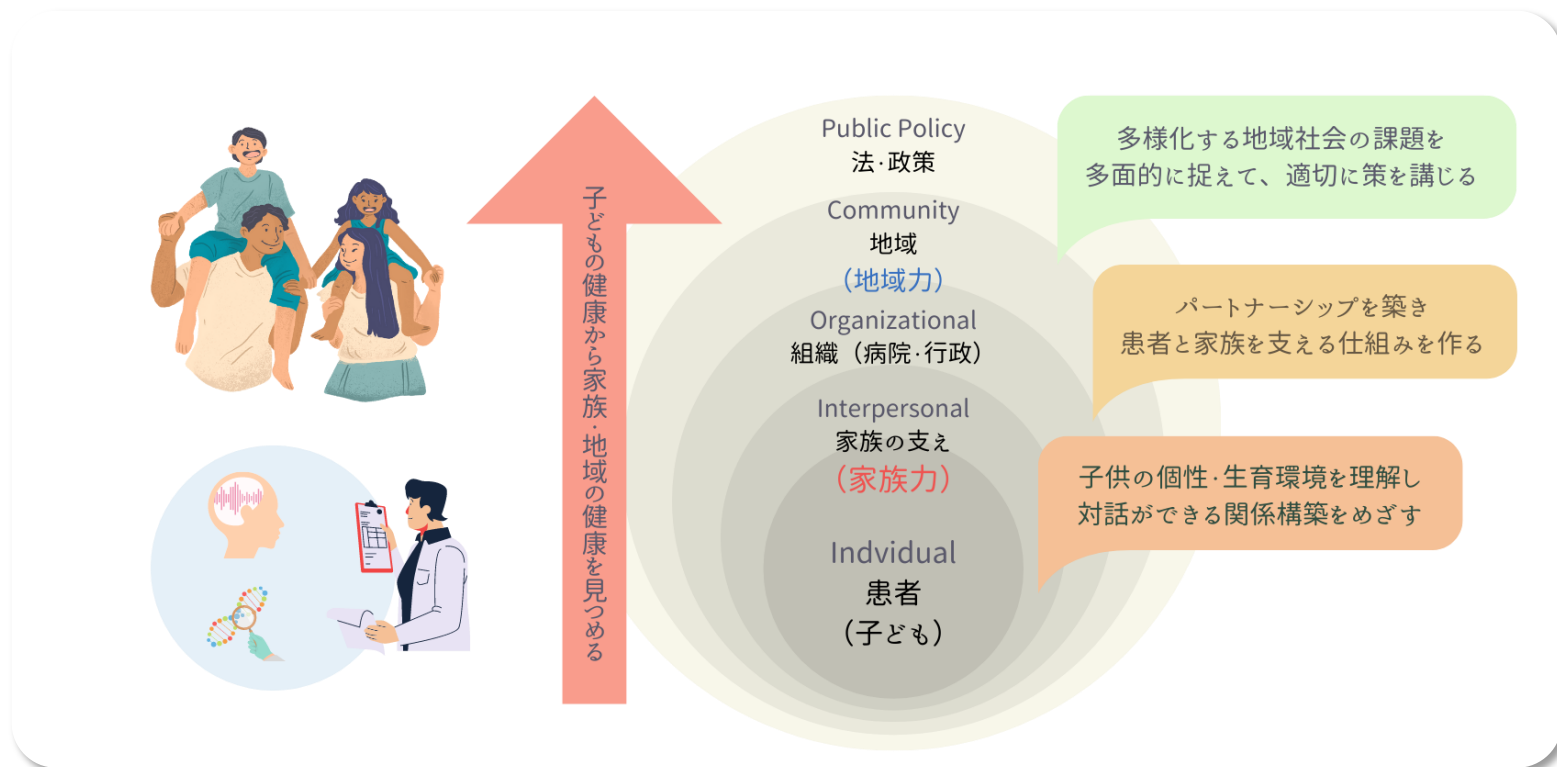
- ・子ども政策に関連する大綱を作成・推進
- ・個々の子どもや家庭状況、支援内容等のデータベース整備

成育部門

- ・教育・保育内容の基準を文科省と共同で策定
- ・「日本版 DBS」の導入を検討
- ・「CDR=チャイルド・デス・レビュー」の検討

支援部門

- ・虐待やいじめ対策
- ・「ヤングケアラー」の支援
- ・施設や里親のもとで育った若者らの支援





ご清聴ありがとうございました